

映画新聞

MOVIE NEWS
6月30日(火曜日)

秋田県 大仙市誕生15周年記念映画鑑賞会に寄せて



ドンパル前にて 左から) 鈴木P (大仙市出身) 映写技師の吉田さん・地元ボランティアスタッフの皆さん

令和2年1月26日、上映会場は秋田県大仙市協和市民センター和ピア。エントランスには昭和を感じる映画の立て看板が迎えてくれた。

この作品のストーリーには私も共感する事があった。当時高校三年生の私は、英語の単位が足りず、演劇部顧問だった英語の先生の「単位をあげる代わりに演劇部の俳優として舞台に立て」との交換条件を否応なしにのむことになった。台本を買ってセリフを暗記していたものの、最初は皆気恥ずかしくて真面目にはやっていた。しかし、他の部員が一生懸命やっ

ている姿を見て、『ちょっと真面目にやってみようか』という気持ちになり出場した大曲市民会館での演劇コンクール。結果は散々であったが自分達は頑張ったの思いが心の隅にちよつと残った。しかし、あれで変な度胸が付いたのか、人前に出て何かをやるということが好きになり、宴会など座を賑わかす演者としての人生を過ごしているうちに、いつしか孫守りのジジンになってしまった。

そして、今回の鑑賞会は最新の機器を整備している会場。些細な音も聴こえる音響、色鮮やかに観えるスクリーンも最高のものだった。二回目というのに又、涙腺が緩んでしまった。「一美、ええ映画だなー最後のテーマ曲「ユビサキ」が流れた時は一つの拍手が二つ、五つ、十つ、何十と拍手の数が増え、会場内に波紋のように大きく広がった。映画を観終わってからの盛大な拍手は初めての経験だった。今は暗いニュースが多く大変な時であるが、もっ

大仙市誕生15周年記念事業 映画鑑賞会

1/18 (土) 仙北ふれあい文化センター
1/19 (日) 中仙市民会館 ドンパル
1/25 (土) 大曲市民会館 小ホール
1/26 (日) 協和市民センター 和ピア



今野昭一 明和会大曲中通病院勤務

上映会主催者募集!

あなたの街で上映会を開催しませんか? 詳しくは下記までお問合せください。上映素材は通常版、英語字幕版、バリアフリー版(日本語字幕・音声ガイド付き)のご用意もございます。

〒834-0047 福岡県八女市福富111-1
電話/FAX: 0943-24-9061
メール: koushien-642@hi3.enjoy.ne.jp

発行人: 鈴木一美
編集: 白石ルリ子、高尾美由紀、仁田原陽子、福富朋子

QRコード
ホームページはこちら

映画鑑賞アンケート集

大曲市民会館 小ホール

何度も涙がこぼれました。誰もがみんな主人公の人生。素敵な映画ありがとうございました。

50代女性

とても感動しました。野球も演劇も同じだなあといい機会にめぐり会い、これからの人生思い出して頑張っていきたいと思えます。これからの若者、人生半ばの人にも観て欲しい中身の濃い映画ありがとうございました。

60代女性

大変良い映画でした。無料で上映して頂き、ありがとうございました。よいものにお金(税金)を使って頂き有意義です。

60代女性

くすつと笑える場面もあり、最初から最後まで楽しめました! 学生だった頃を思い出して、あんな頃もあったなあと懐かしい気持ちにさせられました。ひたむきにまっすぐに不器用ながらも1つのことに真剣に向かい合う姿がとてすばらしかったです。

20代女性

福岡県八女市に行った時のことをなつかしく思い出しました。今日男子駅伝があり、結果が気になりましたが、とても胸おどる映画を観ることができて幸せでした。

70代女性

無料で子供達と鑑賞する機会があるのはありがたい。どんな色んな心を豊かにする物に触れさせる機会があれば良いと思う。

40代女性

スポーツを題材にした作品は数多くあります。その中で、裏方の話、地域の話、恋愛、色々な人間模様を、一人の主人公にとらわれず色々なアングルや主観で作られたら楽しいと思えます。

50代男性

葛藤の意味を再確認できた102分間でした。明日からまた頑張れそうです。

70代男性

ともてピュアで素敵な話でした。高校生の等身大の葛藤が、リアルに描かれていて甘酸っぱい気持ちになりました。キラキラ映画ばかりのシネコンでこんな青春映画が増えていけば良いと思います。

20代女性

実話とはすばらしいです。良い映画をみせてもらいありがとうございました。大仙市で撮るときはぜひエキストラに...

50代女性

中仙市民会館 ドンパル

昨年2月の十文字映画祭で見逃したので、ぜひ大仙市上映会のうち、1会場で鑑賞したいと思っていました。ドンパルは大スクリーンで音響も良いので一層感動が深まりました。老若男女にもっと鑑賞を勧めたいですね。映画には秋田県の方が関わっているのですから。

60代男性

大変感激しました。登場する俳優たちも真剣に役作りにピツタリはまっています。暖かい人情を感じました。人間愛を感じる映画でした。

70代男性

協和市民センター 和ピア

制作側も東京において高校生役のオーディションを開催し、主演の渡辺佑太郎くんはじょんなキャストが決定しました。また、脇を固めるキャストも宮崎美子さん、宇梶剛士さん、林遣都さんなど、派の俳優さんが順次決定していきました。そして年明けの2017年1月、三田村八女市長同席の上、ついに映画製作の記者発表を行ない、この時点で正式に製作が決定しました。(続)

映画「野球部員、演劇の舞台に立つ!」
支援する会 事務局 長 平井靖文



2017年1月16日 製作発表会 左から) 原作者 竹島由美子/製作代表 鈴木高正 監督 中山節夫/八女市長 三田村統之 世話人代表 平田圭四郎

【映画製作に関わって】

軌跡からの奇跡 ④

空自の期間からついに始動!

次男を亡くすという大きな悲しみを引きずりながら2015年となり、多忙な毎日を送っていました。

前年6月以降丸一年、具体的な動きがなかった映画の方も、ようやく6月に再度脚本家の現地巡回があったくらいです。その後は脚本が完成するまで、ただひたすら待っている状況が続きました。この白紙の期間がかなり長かったわけですが、ほんとに映画はできるのか?と少々不安になりました。

11月になりようやく再始動となり、支援する会発足についての協議を開始し、また12月には八女市やJA、商工会議所など関係機関を再訪問するなど、映画製作の本格始動に向け、ようやく具体的に動き始めました。

年が明けた2016年1月、平田圭四郎さんを世話人代表に仰いで、正式に「支援する会」を立ち上げ、活動を開始しました。そして幅広く後援・協賛をお願いするために、東京・大阪・名古屋の福岡県人会や、私がJA時代に取引のあった関東・関西の青果市場・花き市場、その他関係機関へ鈴木プロデューサーと共に協力をお願いして回りました。

製作側も東京において高校生役のオーディションを開催し、主演の渡辺佑太郎くんはじょんなキャストが決定しました。また、脇を固めるキャストも宮崎美子さん、宇梶剛士さん、林遣都さんなど、派の俳優さんが順次決定していきました。そして年明けの2017年1月、三田村八女市長同席の上、ついに映画製作の記者発表を行ない、この時点で正式に製作が決定しました。(続)

なまはげは観た!



映画を拝見して自分の高校生の時を思い出しました。ただ、ラグビーに勝つことだけを考えていました。主人公のように、心に余裕のない生き方をしていました。ラストの「ゴールはない、常に、新たなことに向かっていくこと」との言葉が印象的でした。

ラグビーにも、「よき敗者たれ!」(be a good loser)の言葉があります。「敗れども人生は、常に、挑戦していくこと」と、私は、解釈しています。

残念なことに、この素晴らしい言葉に出会えたのが、10年ほど前のことです。もっと早く知りたかったものです。(笑)

また、今年の2月にラグビーの指導者の方の講演を聴きました。「勝利を目標にして練習をしていけば、勝利を失ったときに何も残らない」との言葉が心に残りました。人間教育のために、ラグビーをするということに、高校時代は、知る由も無かったのです。

協働性・多様性・表現力などを教えてくれる良い作品だと思えます。中学生以上の市民に見せたいものです。いい作品を見せたいのでした。



秋田県 男鹿市長 菅原広一

シネマシヤンテ第81回上映会 秋田県能代市

2月5日、秋田県能代市にあるイオンファミリーシアター能代で「野球部員、演劇の舞台に立つ!」を上映させて頂きました。

きっかけは昨年、能代市在住の画家・金谷真氏の個展を見に行っていた鈴木P、ラグビーサーとお会いする機会があり、福岡県八女市を舞台に製作された映画について熱く語って頂いたことです。私達は地元能代で映画を通じて若者に元気をIIをスローガンに高校生に無料で映画を提供しているボランティアグループなのですが、鈴木氏のお話を伺い、ぜひ能代の中高生にこの映画を観てもらいたいと思い、今回の上映の運びとなりました。

2月初旬でまだコロナウィルスの影響もなく、上映会にはたくさんの人たちが集まって頂きました。その中には、

唐津シアター・エンヤ

佐賀県唐津市に約22年ぶりに復活した映画館「シアター・エンヤ」で、3月16日から10日間上映して頂きました。2019年10月にオープンしたまだ新しい映画館です。私たちが来館した日は、林道都さんのファンが多く、福岡県糸島市から観に来られた方もいらっしゃいました。

劇場スタッフさんから「コロナウィルスの影響で厳しい状況が続く中、『野球部員、演劇の舞台に立つ!』は、今シーズン初の大人入りでした。」と嬉しいお声を頂きました。ご覧になった方の反応も良く「何度も泣けた」「爽やかな映画でよかった」というお声が寄せられました。



11/25

秋田県潟上市立 天王南中学校

「葛藤」を映画の中で経験したことが絶対に力になっていると確信しているからです。能代の高校生にこのような素晴らしい映画を紹介して下さった鈴木プロデューサーはじめ製作に携わられた八女市の全ての方たちに、心から敬意を表し、改めて御礼申し上げます。有り難うございました。

素晴らしい映画を紹介して下さった鈴木プロデューサーはじめ製作に携わられた八女市の全ての方たちに、心から敬意を表し、改めて御礼申し上げます。有り難うございました。

シネマシヤンテ 会長 高橋真理



左) 鈴木P 右) 高橋真理さん



イオンファミリーシアター 能代の入口付近の様子

対話 会話

秋田魁新報 6/11朝刊より

新型コロナウイルスの感染拡大により、学校の臨時休校をはじめ、不要不急の外出自粛、テレワーク推進など、社会生活に大きな影響が出た。とりわけ、映画や演劇、音楽といった芸術文化イベントはほぼ壊滅状態となり、映画館の休業・閉鎖も相次いだ。

芸術文化イベントを展開する企業・団体は中小零細が多い。自前の劇場を持たずに、学校を訪問したり、各地の文化施設を借りたりして上映会や演奏会などを行う「デリバリー」が圧倒的に多いのが現状だ。そこには映写や音響、照明、舞台演出など、多種多様な専門性の高い人材が活躍しており、彼らは国内の芸術文化を支えていると言える。

人が生きるために欠かせないものとしてよく「衣・食・住」が挙げられる。残念ながら、心を育む「文化」は、その中に含まれていない。実際に生活が苦しくなると、娯楽や芸術に充てる費用は真っ先に削られる。しかし、

「コロナ禍」後の映画界は

吉田 幸雄

今回のコロナ禍における映画界の動きとしては、日本アカザミー賞の授賞式が中止となった。多くの映画館が休業を余儀なくされた。文化施設などでの上映会もキャンセルや延期が相次いだ。

本よりも簡素化されているという。芸術文化への理解と支援の手厚さに違いがあるようだ。外出自粛による集まりの需要で、レンタルDVDや音楽CDの貸し出しが増えた。コロナ禍の中で、人が芸術文化を遠ざけたわけではなく、むしろ生活に潤いを求めていたことを心強く思う。作り手、送り手共に、映画の感動をどう発信していくべきか「コロナ禍の先」を模索していかなければならないだろう。

緊急事態宣言が全面解除となり、県内の映画業界も少しずつ再開の動きが出ている。秋田市のTOHOシネマズ秋田では、大仙市出身の鈴木一美プロデューサーが手掛けた、西日本短期大学付属高校野球部の実話を

を基にした作品「野球部員、演劇の舞台に立つ!」を上映中。大館市の御成座は、6月19日に伝説の反戦コメディ映画「まぼろしの市街戦」で再開予定だ。また、県映画センターの配給を受けて地域の実行委員会が行う「デリバリー」映画会は、8月8日に秋田市文化会館で「あの日のオルガン」を上映する。

映画業界は、かつての大恐慌やオイルショック、バブル崩壊、リーマンショックなど数々の困難を乗り越えてきた。その都度、さまざまな問題を解決し、日本の芸術文化と教養を支えてきただけに、私は今回も希望を持っている。(秋田市、県映画センター事務局、68歳)



質疑応答する鈴木P (左) と 古木三規夫先生 (右)

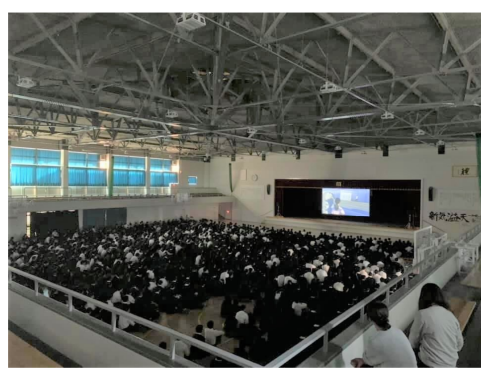
上映のきっかけは、ラグビー部監督且つ熱烈な映画ファンである古木先生が、十文字映画祭で当作品を鑑賞した際、大変感激されたことから始まりました。先生は「この映画は野球の話ではない。全ての部活や何かに取り組んでいる子供たちに共通するテーマがある。この映画を子供たちに絶対観せたい」と断言されていました。また稲荷校長先生は今回2回目の鑑賞でしたが、あと10回は観たいと望外のお言葉を頂きました。

11/9 熊本県立翔陽高等学校

熊本県初の単位制総合学科高校で普通、工業、農業、商業、家庭の5つの系列があります。様々な分野の科目から選択履修の出来る総合学科を有する高等学校です。とても魅力溢れる学校での上映会でした。自分の適性を自分で判断し、自由な選択の出来る学校は素晴らしい!



2/11 秋葉原UDXシアター ドリバス17回目 左から 成田裕生 田中奈月 舟津大地

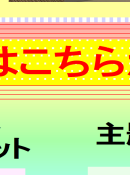


11/1 熊本県 学校法人開新学園 開新高等学校

全校生徒千二百人あまりの生徒さんが鑑賞。身動きもせず息を凝らし、画面に集中している様子は圧巻でした。

12/24 春日クローバーホールにて 福岡県人権啓発情報センター主催

人権週間に関わる事業の一つとして、当作品を上映して頂きました。観た人みんなが「良かったよ」と言ってくれました。



11/21 秋田県立西仙北高等学校

生徒教職員140名による小規模の鑑賞会でした。前日からの降雪で体育館の中は更に寒く、四隅に置かれた4台のジェットストーブの強力な熱風が噴き出す中で行われました。誰一人飽きることなくスクリーンに集中して、上映後には盛大な拍手が起こりました。



購入はこちらから

原作本 パンフレット

主題歌CD



【原作本】
原作：竹島由美子
(定価 1,760円)

【主題歌CD】
「ユビノサキへ」
Good Coming
(定価 1,100円)

【パンフレット】
(定価 700円)